

7月・8月の管理ポイント

平成21年6月25日



株式会社

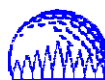
トモグリーン・ケミカル

管理ポイントも本号でついに100号を迎えることができました。毎回ネタ不足に悩みながらも何とか継続してこれたのも数少ないコアな読者に支えられてきたお陰だと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。この原稿を書いているときは、静岡は大雨洪水警報が発令中で土砂降りです。しばらくはこの天候が続くようでやっと梅雨らしくなってきました。7,8月は梅雨後のもっとも過酷な時期を迎えます。当社の製品が少しでもゴルフ場管理者の皆様にお役立ちいただければ幸いです。

ホームページアドレス

<http://www.tomo-green.com/>

第100号

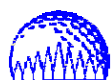


レボ (REVO)

梅雨明け後の根上がり対策に...

梅雨明け後の高温は、土壌中の水分が多いと一気に根上がりしてしまう原因となります。レボを定期散布してある土壌では、土壌中の気層の割合が多いのでこういった症状を軽減できます。高温なので、つつい散水し過ぎになってしまいがちな時期ですが、レボ処理で根上がりの原因となる余分な土壌水分を除去しましょう。

使用量：2ml/m² 散布水量：200ml～1L/m² 散布回数：1ヶ月に1回



アクアダクト・アクアダクトSWDG

ドライスポットが発生してしまったら...

ドライスポットが発生してしまったら、治療剤としてアクアダクト、アクアダクトSWDGを発生個所及びその周辺に散布します(但し、レボを定期散布しているゴルフ場さまはレボの1000倍液をスポット処理して下さい)。アクアダクトSWDGは微粒剤タイプなので、スポット処理には最適で、カップ切りなどの後に処理すると芝の活着が良くなります(SWDGは我が国には無いタイプの細粒製剤で、散水分散型です)。

使用量

アクアダクト：1回目は2.5ml/m²で散布し、回復の状態を見ながら1週間後に1～2.5ml/m²で散布(散布水量0.5～1.0 L/m²) アクアダクトSWDG：10～20 g/m²を必要に応じて1週間毎に散布

※ 2剤とも非常に安全性が高いが、高温時(気温30℃以上が予想される日中)は控えてください。



コ・エンザ

梅雨時期のストレスのかかった芝生には...

7月中旬までは、降雨が多く、日照不足のため植物内の活性が低下し、芝生が軟弱になります。

コ・エンザ処理により、植物内の酵素反応を円滑にし、弱った芝生の回復に努めましょう。

使用量：ベント1～2 g/m² 1L/m²散布 コウライ3～4 g/m² 1L/m²散布



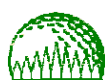
スティンガーFL

害虫発生にあわせて...

7月、8月はシバオサゾウムシ、タマナヤガ、スジキリヨトウ、シバツトガの大切な防除シーズンです。

特に鱗羽目(チョウ目)害虫は、発生ピークが長く、数種類が混在して芝生を食害するので殺虫剤のローテーション散布が必要となってきます。食毒効果でグリーンで1ヶ月、ラフ・FWで2ヶ月以上の効果が期待できるスティンガーFLはローテーション散布の基幹剤としてご使用していただけます。

使用量：スティンガーFL 4000倍 0.2L/m²



グリーンメカ・マリンパワー・光合成細菌

芝の呼吸過多による糖消費と土壌菌数の回復に...

(光合成細菌研究会に入会下さい)

7、8月は高温による芝の呼吸量が増加し、糖含有量は1年で最も減少します。糖が少なくなると特に根に影響を与えるので、グリーンメカでしっかり補給していきましょう。

梅雨明け後(7月下旬)は、土壌が高温多湿で酸素不足になり、硫化水素など根に直接影響を与える有害ガスが発生しやすくなります。光合成細菌とマリンパワーを組み合わせることによって、嫌気性の土壌(排水の悪いどぶ臭い土壌)を改善し好気性の有用菌を定着させましょう。

使用量：グリーンメカ 5～10ml/m² マリンパワー 2～4ml/m² 光合成細菌 1～10ml/m² 各 1 L/m²以上

ゴルフ場における芝害虫の変遷

今回は100号記念なので、本職の芝害虫の専門家の立場からゴルフ場の鱗翅目(チョウ目)害虫の移り変わりを紹介していきたいと思います。ベテランのキーパーさんには懐かしく、新人のキーパーさんには昔はこんな害虫がいたんだなあと思っていただければ幸いです。

1960年代

1970年代

1980年代

1990年代

2000年代～

スジキリヨトウ(1960年代～)

日本で最初に芝害虫として確認された種で、1965年の第1次ゴルフ場建設ブーム以後に注目され始め、本格的に防除され始めたのは1970年以降からである。

シバツトガ(1973～)

ゴルフ場での被害は1968年兵庫県三田市で初めて確認され、当時は和名がなくツトガの一種として扱われていた(当社の害虫研究もここから始まる)。その後1972年、静岡県ゴルフ場でも本種が発生し、静岡大学吉田教授(故人)が1976年、アメリカの国際昆虫学会の折り、この虫を持参し、カナダ農林省より、芝の大害虫Bluegrass Webwormであると同定される。翌年、日本の昆虫学会で和名シバツトガと命名される。日本への侵入時期は1964年の東京オリンピック、高速道路建設・ゴルフ場建設ラッシュに伴う、ティフトンシバ輸入が始まりといわれている。

タマナヤガ・カブラヤガ(1980～)

東北地方の牧草地では1960年代半ばから本種の被害が確認されていたが、ゴルフ場では1980年代から予察等で本格的に調査され始め、害虫化していることが確認された。主に洋芝を食害するためグリーンやティーの被害が甚大で、タマナヤガの場合、生息孔が深いので難防除害虫といわれている。

アカフツツリガ(1970年代～)

1970年代に神奈川県下のゴルフ場のベントグリーンで確認。生息孔が斜孔で非常に深く(8～12cm)且つ底部のドカ(土で作ったすみか)、にいたため薬剤が届きにくく難防除害虫とされている。実際に被害を受けているゴルフ場は少なく、スジキリヨトウやシバツトガ、タマナヤガといった害虫に比べるとマイナー害虫であり、近年はほとんど報告されていない。

フタテンツツリガ(1970年代～)

アカフツツリガ同様、グリーンに生息するツツリガの仲間で難防除害虫である。

アカフツツリガよりは分布域が広く、かつては東海以西のゴルフ場で数多く報告されていたが近年は報告例が少ない。



スジキリヨトウ成虫



クシナシスジキリヨトウ成虫

クシナシスジキリヨトウ(1999年～)

1999年に静岡県のゴルフ場で初めて確認。以後急速に分布域を広げ、現在では関東以西のゴルフ場まで広がっている。スジキリヨトウと非常に酷似しており、現場では区別がつかないが、静岡県西部地区では秋11月以降発生するヨトウはほとんどクシナシスジキリヨトウであることが当社調査により確認。



ワモンノメイガ成虫



ワモンノメイガ幼虫および生息孔

ワモンノメイガ(2000年代～)

近年、中国、九州地域で特に問題となっている害虫でツツリガのようにドカは作らないが生息孔が深く、薬剤が届きにくいため、難防除害虫とされている。当社調査から静岡県でも発生数が年々増加しており、今後重要害虫となっていく可能性が高い。